

春季観光シーズンの訪れを告げる



3月20日(木)に、日本の名水百選である「菊水泉」から湧き出る水を汲み取り、養老神社などに献水し、春季観光シーズンの安全を祈願する「若水取り」が開催され、孝子源丞内に扮した町教育委員会の北村望実さんと若山鈴奈さんがひょうたんに水を汲みました。

町観光協会の中村一会長は「春分の日を迎え、若水取りの開催により春季観光シーズンが訪れました。若水取りは、続日本紀に記述があるように、奈良時代に朝廷から命じられ、立春に菊水泉から汲んだ水を献上することとなってから、今日まで続いている伝統ある行事です。養老公園の発展とともに観光客の安全を祈念しています」とあいさつしました。

次世代につなぐ地域の桜



3月30日(日)に町福祉センターと宮の森公園において、養老町制施行70周年記念 第44回養老町福祉センター文化祭および第1回宮の森公園桜まつりが開催されました。

文化祭では、レク・民謡とオカリナ桜同好会によるステージ発表、各講座や教室で制作された作品やパネルの展示、人権クイズなどが行われ、文化や芸術に触れることで地域住民の感性や創造性を育みました。

桜まつりでは、第1回目の開催を記念して宮の森公園に桜の木が植樹された後、ミニコンサートや菓子まき、抽選会、モルック体験が行われ、会場を盛り上げました。また、各種団体の協力のもと、軽食バザーやヨーヨー風船つり、的当てなどが催され、地域住民のふれあいの場となりました。

絵でそれぞれを表現する



3月21日(金)から23日(日)にかけて、町中央公民館中ホールにおいて養老町生涯学習絵画講座と下笠保育園、れんげの会、養老福祉作業所の合同作品展である『養老絵画教室作品展〈それぞれの表現展〉』が開催されました。この作品展は1年間の成果を発表する場として開催され、どの作品も表現することへの意欲と喜びで満ちあふれていました。それぞれの個性が十分に発揮された見応えのある作品が展示され、観覧にきた人たちを楽しませました。

養老町生涯学習絵画講座絵画担当の西脇義照さんは「今後も絵画の制作や展示などの活動を継続していくことで“美術の輪”や“人の繋がり”を広げていきたいです」と思いを話しました。

特産ブランド盛り上げる新商品



3月26日(水)に株式会社丸明(三神町)の明ちゃんカレー、有限会社小川新聞店(垂井町)の養老サイダーぬいぐるみ、養老サイダーボトルキーホルダー、養老の滝速乾タオル、株式会社農先新(三神町)の養老の杜天然水ゼリーが新たに養老町特産ブランド品として認証されました。

丸明の明ちゃんカレーは飛騨牛が使用され、子どもから高齢者まで食べやすい味です。小川新聞店の3品は養老サイダーや養老の滝への愛着を深める商品です。農先新の養老の杜天然水ゼリーは風船を割って楽しく食べられる商品です。それぞれが町を代表するお土産となることと期待されています。

2015年度から認証が始まった特産ブランドは今回で32品となりました。